

1 校 訓 「夢」 「協働」 「感謝」 「笑顔」

2 学校ビジョン

- 子供、職員、保護者、関係する全ての人々がウェルビーイングを実感できる学校
- 児童生徒が「わかる・できる・えらぶ・つたえあう」ことの楽しさを実感できる学校
- 職員が多様な人々との対話や協働をとおして心が動く経験や自身の変容を実感できる学校

3 学校教育目標 「やり方がわかる！ 自分で考え選ぶ！ やってみる！」（合言葉に）

4 教育・経営の方針

(1) 全般

- ・ 本校の最上位目標を「命を大切にすること、人権を守ること」とし価値基準に設定
- ・ 学校ビジョンを具現化・視覚化するための学校経営計画を策定
- ・ 「もなみの教育（教育課程基底計画）を踏まえ学部間の連続性がある教育課程の編成

(2) 学習指導

- ・ 学校教育目標を反映した授業改善の推進
- ・ ICT 機器等を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ・ 自立活動や道徳教育、総合的な学習（探求）の時間の充実
- ・ 「学びの履歴シート」の全校活用

(3) 生徒指導・進路指導

- ・ 学校教育目標を意識した発達支持的生徒指導の推進
- ・ いじめ防止対策委員会を中心とした組織的対応による未然防止、早期発見・解消の徹底
- ・ 家庭や関係機関と連携した組織的支援による不登校の未然防止と早期発見
- ・ 自己選択・自己決定の資質・能力を高めるための進路指導の在り方を検討

(4) 安全・安心

- ・ 学校保健安全計画による組織的対応と食育を含む健康安全教育の推進
- ・ 実践的な避難（防災）訓練の実施と子供の重大事故を想定した職員向け訓練の実施
- ・ スクールバスの安全確保と円滑な運行
- ・ 学齢に応じた「自分の命は自分で守る」安全教育の推進

(5) 家庭や地域との連携

- ・ 学齢に応じた地域資源を活用した学習の在り方に関する検討
- ・ 教員の参加による学校運営協議会による熟議
- ・ 本校の教育を知ってもらうための発信方法の工夫
- ・ 家庭や地域から信頼され続けるための言動と服務規律の保持、個人情報管理徹底

(6) 研究・研修

- ・ 授業に直結する校内研究の推進（授業改善）
- ・ 日常の指導について、同僚に相談したり専門家より助言を受けたりする取り組み
- ・ 所属学部以外の授業参観（＝小中高のつながり）
- ・ 道立特別支援教育センターと連携した研修活動（理論と実践の往還）の推進

(7) 組織運営、働き方改革

- ・ 速やかな報告・連絡・相談の徹底
- ・ ハラスメントのない職場、コミュニケーションが豊かな職場、指摘しあえる職場
- ・ 時間外在校等時間を1か月45時間以内、1年間で360時間以内を厳守
- ・ 副校長・教頭・事務長の勤務時間の縮減

(8) その他

- ・ 教員確保のための「草の根教育実習」及び「高校生の小・中学校等におけるインターンシップ」に係る協力の在り方を検討

5 教育・経営の重点

(1) 「自己決定」を核とした授業づくりと客観的評価

- 「わかる・できる・えらぶ・つたえる」の徹底
- 一時間ごとの授業において、子供が「選ぶ」場面を意図的に設定（指導案に明記）
- 言葉のない子供においては視線や表情の変化を「意思」として評価
- Google Workspace を活用した学習 DX 化の在り方を検討

(2) 「チームもなみ」としての組織運営と風土改善

- 学部間の情報（児童生徒の教育活動）共有の促進強化（チャットや掲示板の活用）
- 意図的な交流機会の創出（ワールドカフェなど）
- 心理的安全性の確保と4つの意識（目的、当事者、他者、協働）の実践
- 新学習指導要領審議経過や本校在籍12年間を見通した教育課程の検討（R9実施）

(3) 実効性のある「働き方改革」とウェルビーイングの向上

- 業務プロセス精選（時間厳守、計画・記録の簡略化、時間の創出、会計業務の整理等）
- 管理職の負担軽減（最終退勤者による施錠ルール徹底、業務内容の見える化等）
- 業務分担の平準化（各職員の業務内容の見える化）の進め方を検討
- 長期休業期間中における在宅勤務の推進

(4) 地域と歩む開かれた学校づくり

- 地域連携の深化（win-winの関係構築、外部専門家による研修機会の拡充）
- 児童生徒が地域で活動（貢献）できる機会の拡充
- 情報発信の工夫（報道機関への取材依頼、学校HP、町内会回覧板等）
- 学校運営協議会（CS）の機能強化（地域資源を教育課程に組み込むための熟議）